

バックアップを使用した、集中型スタンドアロンモードでのTLS対応NDDDB 3.10.4コントローラの設定

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[バックアップ手順](#)

[再構築手順](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、バックアップを使用して、TLS対応のNexus Dashboard Data Broker(NDDDB)v3.10.4をスタンドアロンモードで再構築する手順について説明します。

前提条件

要件

コントローラのリビルドプロセスを開始する前に、次のコンポーネントが準備され、アクセス可能であることを確認します。

- 仮想マシン環境：最小システム要件を満たす、新しくプロビジョニングされた64ビットのLinux仮想マシン。
- ソフトウェアパッケージ：公式のNDDDBコントローラインストールメディア。
- システムバックアップ：最新のシステムバックアップファイル。
- セキュリティ証明書：コントローラに関連付けられた特定のtlsTrustStoreおよびtlsKeyStoreファイルにより、セキュアな通信が保証されます。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- ハードウェア : Cisco UCS C240 M7SXラックサーバ
- Cisco Integrated Management Controller(CIMC)バージョン : 4.3.6(250053)
- 仮想化/オペレーティングシステム : Red Hat Enterprise Linux(RHEL)9.5 (64ビット)
- 仮想マシン(VM)オペレーティングシステム : Red Hat Enterprise Linux(RHEL)9.5 (64ビット)
- アプリケーション : NDDDBコントローラ3.10.4 ([リンク](#))
- アクセス方式 : キーボード、ビデオ、マウス(KVM)による仮想メディアマッピング
- ファイル転送ユーティリティ : WinSCP (Windows Secure Copy)。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

バックアップ手順

この手順は、NDDDBファブリックを管理する運用チームが、重要なコントローラデータをアーカイブするルーチンを確立するために推奨されます。ビジネスの継続性を確保するには、システムバックアップをtlsTrustStoreおよびtlsKeyStoreファイルとともにアクティブコントローラから定期的にエクスポートする必要があります。



注 : 定期的なバックアップについては、組織の指示に従ってバックアップ計画を実施し、リビルドプロセスを開始する前にそれらのバックアップにアクセスできることを確認してください。

ステップ 1 : https://IP_address:8443/を使用して既存のNDDDB GUIインスタンスにログインします。

ステップ 2 Administration > Backup/ Restoreタブに移動します。

ステップ 3 Backup Locallyをクリックして、設定をzipファイルとしてダウンロードします。

ステップ 4 WINSOCPを使用して64ビットプロビジョニングされたLinux VMに接続し、<path>/ndb/configurationフォルダに移動して、tlsTrustStoreファイルとtlsKeyStoreファイルをローカルマシンにコピーします。

再構築手順



注意:VMおよびネットワークの設定：新しい64ビットLinux VMをプロビジョニングする前に、ネットワークまたは設定の競合を防ぐために、元のコントローラインスタンスの電源が完全にオフになっていることを確認してください。元のインスタンスがオフラインになったら、元のインスタンスと同じIPアドレスで新しいVMを設定します。

ステップ1:新しいLinux VMにSSH接続し、次のコマンドを実行してディレクトリを作成し、NDDDBコントローラをインストールします。

```
mkdir /home/<user>/Desktop/CiscoNDDB
```



注：注：Linux VMの再配置時に作成されたユーザに応じて変更します。

ステップ2:このリンクからNDDDBコントローラインストールファイル(集中型の導入のための[Cisco Nexus Data Brokerソフトウェア](#))をダウンロードし、WinSCPを使用して、ステップ1で作成したCiscoNDDDBフォルダ(/home/<user>/Desktop/CiscoNDDB)にコピーします。また、バックアップされるバックアップコンフィギュレーションファイルのtlsTrustStoreファイルとtlsKeyStoreファイルもコピーします。(定期的なバックアップ手順の使用)

ステップ3:すべてのファイルがCiscoNDDDBディレクトリにコピーされたら、CiscoNDDDBディレクトリに移動し、次のコマンドを実行してCiscoNDDDBソフトウェアをインストールします。

```
cd /home/<user>/Desktop/CiscoNDDB
unzip ndb1000-sw-app-k9-3.10.4.zip
```

ステップ4:tlsTrustStoreおよびtlsKeyStoreファイルを/ndb/configurationフォルダにコピーします。

```
cp /home/<user>/Desktop/CiscoNDDB/tlsTrustStore /home/<user>/Desktop/CiscoNDDB/ndb/configuration/tlsTrustStore
cp /home/<user>/Desktop/CiscoNDDB/tlsKeyStore /home/<user>/Desktop/CiscoNDDB/ndb/configuration/tlsKeyStore
```

ステップ5 次のコマンドを使用して、NDDDBインスタンスを再起動します。

```
<#root>
```

```
cd /home/<user>/Desktop/CiscoNDDDB/ndb/
```

```
./runndb.sh -tls -tlskeystore ./configuration/tlsKeyStore -tlstruststore ./configuration/tlsTrustStore
```

手順6:コントローラサーバIPにSSHで接続し、パス :

```
cd /home/<user>/Desktop/CiscoNDDDB/ndb/bin
```

```
run,
```

```
<#root>
```

```
./ndb config-keystore-passwords --user admin --password admin --url https://
```

```
ip-address_localhost*
```

```
:8443 --verbose --prompt --keystore-password
```

```
keystore_password
```

```
--truststore-password
```

```
truststore_password
```

```
Please enter your password: <enter the NDB GUI Default password>
```



注 :

1. これは新しいコントローラの導入であるため、これまでパスワードは設定されていません。デフォルトパスワードはadminです。
 2. *ip-address_localhost**をコントローラサーバのIPに置き換えます。
 3. 続行する前に、tlsKeyStoreファイルとtlsTrustStoreファイル、および対応するパスワードが準備されていることを確認します。証明書がない場合は、「[NDBサーバとNDBスイッチ間でのNXAPI用のTLSサードパーティ証明書の生成](#)」というタイトルのドキュメントを参照して、元の.cerファイルと.keyファイルを使用して必要な証明書を再生成してください。
-

ステップ 7 https://IP_address:8443/を使用して、NDDDB GUIの新しいインスタンスにログインします。

ステップ 8 Administration > Backup/ Restoreタブに移動します。

ステップ 9 Restore Locallyをクリックして、ステップ2で前述したコピーのバックアップコンフィギュレーションファイルをアップロードします。

NDDDBの再起動後に、アップロードされたバックアップからNexus Dashboard Data Brokerでデバイスの設定を再構成する場合は、[復元] チェックボックスをオンにします。次のように再設定されます。

- ・ グローバル構成
- ・ ポート構成
- ・ UDF
- ・ Connections



注：

1. 「復元」チェックボックスは、NDBリリース3.8以降で生成されたバックアップファイルとのみ互換性があります。このオプションを有効にすると、スイッチの完全な再プログラミングがトリガーされることに注意してください。このプロセスの期間は、ファブリックサイズとポリシーの総数によって異なります。ダウンタイムが長くなるのを防ぐため、大規模なNDDDBファブリック（20スイッチを超えるファブリック）では、このチェックボックスを使用しないでください。
2. 設定のアップロードが正常に行われると、GUIに成功のメッセージが表示されます。

ステップ 10 NDDDB GUI > Devices > NDB Switchesの順に移動します。NDDDBスイッチのステータスが緑色であることを確認します。赤色になっている場合は、両方のスイッチのチェックボックスをオンにして、Action > Reconnectの順にクリックし、5分間待機します。

5分待機した後もステータスが赤色のままである場合は、影響を受けているスイッチを再度選択し、Action > Rediscoverの順に移動します。



警告:再検出はポリシーのプッシュをトリガーし、短期間のサービスの影響を及ぼす可能性があります。スイッチのステータスが赤色の場合にのみ、この操作を実行します。

関連情報

- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker設定ガイド、リリース3.10.4](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。